

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091500316		
法人名	医療法人 静光園 第二病院		
事業所名	グループホーム やまぼうし		
所在地	大牟田市櫛野3260-102		
自己評価作成日	平成23年3月14日	評価結果確定日	平成23年8月11日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年3月31日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が生活する上で、その人らしい生活が送れる支援を行う理念に基づいて、本人の意思決定ができる介護に取組んでいる。この地域は高齢者が多く、地域に開かれた施設として交流広場を開放し地域住民と交流を持ち介護予防の一役を担っている。また、施設には畑があり、住民の指導を受けながら農作物を作っている。収穫時には地域住民と一緒に料理を作り試食会を行ったり配ったりしている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームには畑があり、近所の方が主導者となり、利用者と一緒に野菜を作っている。収穫時期になると野菜を配ったり、芋煮会を開き、地域住民に振舞っている。同敷地内には交流広場の建物があり、市の委託を受けて「よかばい体操」を週1回開催したり、サークル活動が盛んに行なわれている。今年度は「元氣ばい。ひばりが丘」と題してサークルの発表会を開催し、約100名の参加者が訪れ、利用者も地域の一員として参加し交流を図っている。また、年2回行なわれている「あいさつ運動」には1~2名の利用者と一緒に立ち挨拶を交わす等、地域の運動にも積極的に参加している。近隣には古くからある団地があり、ホームの地域と一緒に活性化したいとの意向を受け、地域活性化に向けた取り組みを思案しているところであり、今後の活動が楽しみである。

## . サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域であたりまえの暮らしを支援する理念のもとにケアを行なっている。毎日のカンファレンスの中で情報を共有して安心して暮らせる環境作りをしている。	職員のケアの取り組み状況や関わり方等を見ながら、理念に基づいたケアが実施されているかを話し合い、理念の見直しを行なっている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員となり地域での交流に参加し、また施設交流広場は地元の開放し使用者と一緒に食事を作ったりして交流を深めている。	ゴミ出しやリサイクル当番時は、利用者と一緒に立ち会いを実施し、地域の方と挨拶を交わしている。ホームの畑で採れた野菜を使用し、芋煮会を開催している。地域の方を含め80名位の参加があり好評となっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	大牟田市の徘徊模擬訓練の事務局となり地域の方々と一緒に訓練したり、認知症に関わる勉強会等を行い認知症の人の理解を頂いている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状態や利用状況、行事内容など毎回報告し評価をいただいている。委員からの意見は素直に受け入れ今後の運営やケアに役立てている。	2ヵ月に1回、隣接する小規模多機能ホームと合同で定期的開催されている。参加者は自治会長や民生委員、公民館長、社協、包括、市職員等のメンバーからなり、利用状況や行事報告、地域からの情報等の話し合いが行なわれている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設での行事等に参加を求め施設の状況を見ていただいている。また、反対に市の行事ごとにも積極的に参加し担当者との良好な関係作りをしている。	会議や行事等に積極的に参加し、市側もホームの行事や地域交流広場でのイベント等に参加されている。相談しやすく、協力も得やすい関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルを作成し、正しく理解できるよう周知徹底している。その人のライフスタイルが取れるよう拘束はしていない。	身体拘束に該当する利用者やセンサーを使用している方はいない。法人全体で年1回は研修が実施され、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。カンファレンスは毎日行なわれており、関わり方や言葉のかけ方等、その都度話し合いを行なっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	まず、職員に自分が虐待された環境を想定してもらい業務についてもらっている。なぜ、虐待がいけないか感じてもらうようにしている。		

福岡県 高齢者グループホーム やまぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では成年後見制度の活用はしていない。研修会の中での知識で十分理解しているとは言えない。	年1回は外部研修に参加し、その後遠達研修を実施し、職員間で共有している。契約時に権利擁護に関する制度について説明を実施し、必要時には対応できるようにしている。制度の案内・説明ができるよう、大牟田市が発行しているパンフレットを常設している	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約時とも十分時間をかけて説明を行っている。転院時や解約時は説明を行い理解や納得を得るようにしている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見・要望を引出せる環境を設定し、出された意見や要望をミーティングにて話し合いケアに取り入れている。	家族会の開催や、玄関にアンケート用紙を設置する等、家族との関係性の強化や、意見、要望の収集に向けて取り組みが行われている。遠方で面会ができない家族には手紙やメールでやりとりし、意見、要望を聴取している。	現状として、運営推進会議や家族会への参加率も低く、意見もあまり出ない状況にある。意見箱の設置場所の工夫やより積極的なアンケートの実施等、今後も継続して取り組まれることを期待します。
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週1回法人との施設長会議で利用状況や予定状況等報告し、また、月1回の福祉部の定例会を設け法人からの運営方針を「たけとんぼ」との合同ミーティングの中で運営方針の情報を共有している。	職員からの提案として、利用する方が不安定な時間帯に寄り添うことができるよう、勤務シフトの変更をして欲しいという意見があり、話し合いを行い、実現に至った経緯もある。毎日カンファレンスが行われており、情報共有、意見交換の機会としている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面接を行い管理者・職員が職場環境について話し合い、やりがいがある職場に持っていけるよう努めている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては性別や年齢などに制限はしていない。事業所で働く職員には新しいことにチャレンジすることを推奨している。資格取得や研修への参加しモチベーションを上げている。	性別や年齢に制限はなく、現在40代から60代の職員が在籍している。主に「意欲のある人」を重視し、ホーム長と事務長が面接を行っている。職員の中には、絵や料理が得意な人や、レクリエーションインストラクターの資格保有者等があり、得意な事を発揮できるよう環境を整えている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人主催の研修会への参加を行い、法人としての人権教育に取り組み人権尊重の意識付けに努めている。	毎年、人権週間の期間に法人主催の人権研修を実施し、人権教育を行なっている。毎日カンファレンスを行ない、日々のケアに「尊重」を忘れないよう意識付けを行なっている。	

福岡県 高齢者グループホーム やまぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修・福祉部内での研修を行い、個々のレベルアップを図っている。外部への研修には個人的に参加している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症ケア研究会の研修に参加し他の施設職員と交流を図っている。また、他施設での行事ごとには利用者とともに参加している。大牟田市の徘徊模擬訓練の事務局をしネットワークづくりをしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者には見学や体験利用などをしていただき不安の軽減に努めている。その中で利用者が望んでいることを把握し安心してサービスが受けられるよう努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族が困っていることや不安や要望等を聴きいれ今後の方向性を一緒に考え不安解消に努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談先のケアマネやケースワーカーと連携をとり、待機状態になった場合には小規模多機能の利用を提案したり、他のサービス事業所を紹介している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の立場で考え、喜怒哀楽を共に共有できるよう努めている。普通にあたりの生活ができるよう支援している。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いを大切に、共感しながら本人の思いを伝え安心した生活が送れるよう家族・職員とともに支えていけるよう努めている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前、利用されてい美容室や床屋などへの支援をおこなっている。馴染みの関係が切れないよう支援に努めている。	家族や友人、一緒に働いていた元同僚の方達が面会に来ている。帰宅願望が強い時は、家族の協力を得ながら一時帰宅したり、ホームの近所に住んでいた方は、散歩がてら自宅に帰ったりする等の支援をしている。	

福岡県 高齢者グループホーム やまぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでのくつろぎの中でお互いが気軽に話し合える環境の場を設定している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了になられても利用者で見舞いに訪問したり、亡くなられた方へも職員・利用者とともに葬儀に参列したりし家族との関わりが継続できるよう努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分らしい生活が継続できるよう本人の思いを知り利用者本位のケアに心がけている。	毎日のコミュニケーションを大切にしている。特に寝る前のリラックスしている時間に気持ちを確認している。質問の仕方によっては身構えてしまうので、何気ない会話の中で言動や行動、表情をくみとっている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の関係者より情報収集し状態把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族や他事業所・病院からの情報を得て本人のでところを支援できるよう情報収集に努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議の中で関係者との話し合い意見やアイデアを反映し本人に適した計画を作成するようにしている。	担当制を設けており、担当者と計画作成者でプランを作成している。本人の意向及び担当者会議で話し合った事をプランに反映している。センター方式を取り入れており、今後もっと内容を充実させたい意向がある。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に状態の変化等記録しているが、気づきの記録の部分が不足している。		

福岡県 高齢者グループホーム やまぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣に小規模多機能があり、職員・利用者との交流を行い、馴染みの関係を作り小規模多機能からグループホームへ入居になった場合スムーズに移行できるよう支援している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	交流ひろばの利用者に了解を得て見学や参加をさせていただいている。また、地域の行事には利用者を連れて参加している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医に引き続きフォローを行ってもらっている。往診や受診を定期的に行っており職員が付き添い情報交換を行っている。	入居してから提携医に変更することなく、元々のかかりつけ医での受診・往診が可能である。家族や職員が受診の支援を行ない、安心して医療が受けられるよう連携を図っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職が常勤し、利用者全員の心身の状況を把握し健康管理や医療支援を行っている。また、小規模多機能の看護師と連携し情報の共有を図っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院介助時、主治医及び病院側の職員へ情報の提供を行っている。入院時は速やかに施設での情報提供を行い面会時は病院からの情報を頂いている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	グループホームでできること、できないところを見極めるようにしているが、現在、対象者がいないため終末期に対する検討が十分ではない。	ホームとして看取りの指針についての書類を作成し、入居時に説明・同意を得ている。過去に看取りを行った経緯はないが、今後の本人、家族の意向により、対応していきたい意向がある。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会は行っているが、いざという時の対応ができる技術を身に付けるよう努めている。		

福岡県 高齢者グループホーム やまぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	病院での防災訓練には参加しているが、事業所での訓練はまだ実施していない。今年度、行う予定である。	地区の防災訓練に利用者と一緒に参加している。夜間想定避難訓練は実施されておらず、地域の参加協力も、現状としては得られていない。備蓄品は現在準備中である。	昼夜問わず、定期的に災害時における避難訓練を実施されるとともに、運営推進会議の中で、地域との協力が得られるような働きかけが必要と思われる。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、人生の先輩として尊重し言葉遣いや態度・対応に気をつけている。慣れで言葉遣いが雑になってるところも見受けられる。	言葉使いには気をつけているが、不適切だった場合はその都度、その場面で注意し合っている。また、プライバシーの観点から事前に本人及び家族に同意を得て「ひばりが丘通信」を年4回、顔写真付きで発行している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話の中で思いや希望を聞き出しケアの中に取り入れるようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを重視し、自己決定ができるように雰囲気作りを行っている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣や入浴準備は一緒に行い自分で今日はどれを着るか選んで貰っている。理美容に関しても自己選択して貰っている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は本人の生活スタイルに合わせ、希望する時に摂取しているため朝食時間は決まっていない。食事内容は利用者の好み・希望に沿えるよう献立に工夫している。食事は職員と共に同じテーブル食べている。	利用者の出来る事を発揮できるよう支援している。具体的には、モヤシの根切りや野菜の皮むき、包丁を使って野菜をカットする等、職員と一緒に準備や片づけを行なっている。献立は利用者の意向を取り入れ、法人内の栄養士にチェックを受けている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	疾患がある方は主治医からの助言をいただき工夫している。また、法人の栄養科より指導をいただいている。		

福岡県 高齢者グループホーム やまぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は一人ひとりに声掛けし歯磨きを行っている。一人でできない方は職員が援助している。夜間は義歯をボリデントにいれ清潔を保っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パターンシートを参考に時間をみて誘導や声掛けを行っている。食事についても工夫している。	排泄パターンシートを活かし、利用者のパターンに合わせて誘導を行なっている。食事の工夫として食事の硬さや柔らかさを個々に合わせ、エンシュアリキッドを凍らせてシャーベットにする等、栄養と水分補給に留意している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や食事の工夫を行い、必要な時は処方されている下剤を使用している。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴できるよう心がけている。自分の入浴スタイルに合わせている。入浴拒否の方は強制せず、タイミングや会話を通じて入浴を実施している。	南側にお風呂場があり、窓からは山の自然な景色が見れる環境があり、楽しみのひとつとなっている。毎日全員入浴できるよう支援している。夜間入浴の希望はないが、あれば対応できるようにしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間覚醒し不眠のかたへ飲み物を提供したり話をしたりして安心して眠っていただくようにしている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬が何故必要なのか職員に理解するようにしている。同時に副作用についても理解をするようにしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム周辺や買物に一緒に出かけている。一人ひとりの趣味や楽しみをみんな把握しているとはいえない。		



福岡県 高齢者グループホーム やまぼうし

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>一人ひとり希望がなかなか表出されず、ホームで過ごす時間が多い。気分転換に車で外出することもある。</p>	<p>散歩は日常的に行なっており、畑作業も利用者の楽しみのひとつとなっている。年1回、法人全体での大運動会が開催され、利用者と一緒に参加する機会がある。</p>	<p>自己評価でも認識されているように、本人の意向の把握に努め、外出に向け柔軟に個別対応できるようになることを期待したい。</p>
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お小遣いは小額預かっていて買物時は自分で支払をしていただいている。また、小額所持することで安心される方もいる。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話はいつでもかけられるようにしている。面会の少ない方には本人の意思を確認し電話をしている。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>電気の色合いや観葉植物・水槽等を設置し落ち着いた空間作りに気をつけている。</p>	<p>南向きにリビングや和室、浴室があり、光と景色を楽しむことができる。また、リビングの窓を開ければ隣接する小規模多機能ホームまで繋がっている長いウッドデッキがあり、自然に囲まれたおいしい空気と四季を味わいながら、ちょっとした散歩ができ気分転換できる。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>仲間作りができるよう空間に配慮し、和室を設けたり一人の時間が取れる空間もある。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前、本人・家族と相談し馴染みのある家具等が必要な方には自室に持参していただいている。</p>	<p>居室は仏壇や鏡台、箆笥、テレビ、、ソファ、絨毯などが持ち込まれており、独自の空間がつけられている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや風呂に使用中の表示板つけ場所の間違いや混乱を招かないようにしている。屋内はバリアフリーにして事故防止に努めている。</p>		